

令和6年度 山手中学校 学校評価

1 学校教育目標

自ら学び続け たくましく生きる ころ豊かで自立した生徒の育成

2 指導目標

- ①わかる授業を展開し、学習習慣の定着を支援する ②自他の命を大切にする生徒の育成
③相手を理解し、互いに高め合う生徒の育成 ④感謝の心を持ち社会に奉仕する生徒の育成

3 学校自己評価と改善の方策

A：できている B：だいたいできている C：あまりできていない D：できていない

努力項目	評価項目	達成状況 (自己評価)	改善の方策
「確かな学力」の育成	基礎・基本の確実な定着	A	○授業のまとめや振り返りを丁寧におこなう。 ○授業でのつまずきに対し、補助資料等の積極的な活用でつまずきの解消を図る。 ○学習の指導方法を工夫し、個に応じた指導を心がける。
	主体的な学習態度の育成	B	○家庭学習の手引きを活用する。 ○授業内容を理解しにくい生徒への支援を工夫する。
	ICTの効果的な活用	B	○生徒が学習でクロムブックを活用する機会を増やす。 ○教材アプリを積極的に活用する。
開かれた学校づくり	情報発信	A	○HPやデジタル連絡ツールを活用し、情報の共有化を図る。
	地域との連携、交流の充実	B	○地域人材の活用や地域行事、活動を学校の取組と関連づける。
「豊かな心」の育成	道徳的実践力を養う道徳教育の充実	A	○規範意識、差別や偏見を許さない心を、家庭・地域と連携し育成する。
	信頼関係の確立	A	○アセスや教育相談はもちろん、日常生活のあらゆる方面から心身のサポートする。
	お互いを思いやる人権教育の推進	A	○教育活動全体を通して人権感覚を育成する。
	豊かな情操の育成	A	○自己有用感を高める取組を継続していく。

4 学校関係者評価

努力項目	関係者評価（自己評価の適切さ）	評価・意見（感想）など
「確かな学力」の育成	適切である	・家庭学習の定着には課題が残るものの、先生方には、楽しい授業やわかりやすい授業をしていただいていると子どもから聞いている。 ・普段からコミュニケーションをとっていただき、子どもからもその日の出来事などよく話してくれる。 ・地域での挨拶など、マナーはしっかりできている。学習面でしんどさを抱える生徒は毎年いるが、様々な工夫をされているように思う。 ・様々な課題を抱える生徒たちに丁寧に指導支援をしてくださっていると感じる。 ・家庭での学習習慣の確立には保護者の協力も必要である。
開かれた学校づくり	適切である	
「豊かな心」の育成	適切である	